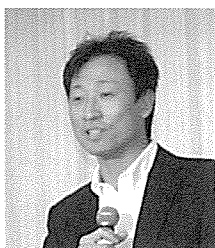


## 青年部

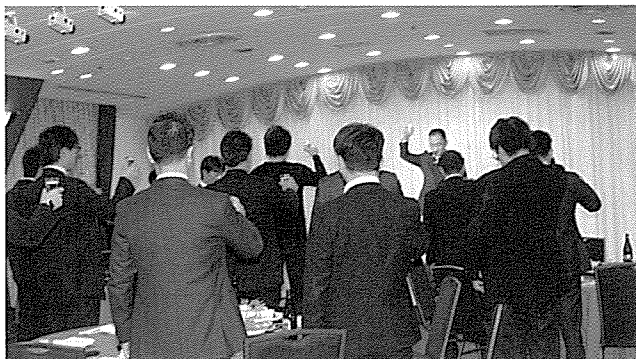
青年部(近藤大樹会長)の新年会が1月26日(金)午後6時よりアパホテル錦11階ビルゴ(名古屋市中区)において、新会員4名(伊藤彰英氏/丸う運輸(株)、柘植章仁氏/(株)中部クリーン、東久保翔平氏/(有)愛知環境センター、宮下雄一郎氏/(株)石川マテリアル)を含む29名が参加して新年会が行われました。

開会の挨拶で近藤会長は「皆様明けましておめでとうございます。冒頭から私事で恐縮ですが、やっと厄が明けました。皆さん厄年についてはご存知だと思いますが、私は前厄、本厄、後厄と、これまでの人生で経験したことのないアクシデントに見舞われてしまいました。今年からは良い年を迎えることができるのではないかと、希望に満ち溢れております。また今回は新しい入会者の方が4名ご参加いただき、益々青年部の飛躍の年になるのではないかと確信しております。皆様にとりましても一層のご活躍の年となることをご祈念致しつつ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。」と述べました。



新年の挨拶を述べる  
近藤会長

## 新年会開催



永田直前会長による乾杯

続いて乾杯に移り直前会長の永田幹人氏により「会長をはじめ、会員の皆様が今年一年安全で健康でありますよう祈念いたします。」と挨拶後、乾杯の発声となりました。

各テーブルでは各社における今年の抱負などを隣席者と語る様子が見られました。また会食を通じて新会員の方々は、既存会員の方へ青年部の方向性などを聞くことができる良い機会でした。

宴もたけなわの頃、「あやまんJAPAN」によるパフォーマンスがあり、参加者からの拍手喝采を浴びるステージが披露されました。

その後新年会は監事 浅井明利氏の中締めで、お開きとなりました。

## 随筆

### ～炭づくりを通して得たもの～

平成4年身近な自然を守り育てる市民活動として当時岐阜大学教授であった林 進氏を中心に雑木林研究会を立ち上げ、かつて里山として利活用されてきたが近年、開発や人の関わりが無くなり放棄されて荒廃した名古屋や近隣の樹林地をもう一度生物多様性の森に再生しようと活動を開始した。

竹の繁茂で藪化したり高木になり過ぎて薄暗く低木草すら生えない森を間伐して光を入れたり、そこからの発生材を炭にする体験を通して得た経験から都市部でも使える大型縦型連続炭化装置や移動式ミニ炭化炉の開発をした。製品の炭化物は土壌改良材、水質浄化材、脱臭剤、燃料など様々な活用される。最終処分場の浸透水の浄化に竹炭や木炭を細かくして炭素繊維の網袋を二重にした中に入れて集水桝に沈めておくと汚水を餌として微生物が繁殖し、水質浄化に貢献する。

今も森の手入れで得た木の実や草花で押花やクラフト教室を開いたり、お花炭を焼いて室内の調湿に利用したり、土壌改良や水質浄化にしっかり利用しているが、健康でいられるのは里山のお陰かもしれない。

浦田恵美子/(株)コスモス・エコ研究所